

ミニディスクロージャー誌

平成 23 年 3 月期・営業のご報告

MINI DISCLOSURE 2011

HOKURIKU HOKKAIDO Tokyo・Nagoya・Osaka



株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ[®]
Hokuhoku Financial Group, Inc.

目次

● ごあいさつ	01
● 中期経営計画	02
● 業績ハイライト	03
● グループの概要	07
● 地域とのかかわり	08
● 地域とともに (北陸銀行)	09
● トピックス (北陸銀行)	12
● 地域とともに (北海道銀行)	13
● トピックス (北海道銀行)	16
● 財務諸表 (ほくほくフィナンシャルグループ単体)	17
● 財務諸表 (ほくほくフィナンシャルグループ連結)	18
● 財務諸表 (北陸銀行単体)	19
● 財務諸表 (北海道銀行単体)	20
● 株式のご案内	21
● 経営理念	22



取締役社長 高木 繁雄
(北陸銀行 頭取)

取締役副社長 堰八 義博
(北海道銀行 頭取)

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

ここに、ほくほくフィナンシャルグループの「ミニディスクロージャー誌(平成23年3月期・営業のご報告)」をお届けいたします。

本誌では、当社の平成22年度の業績や地域金融機関としての取り組みなどについて紹介しております。ぜひご一読いただき、当社に対するご理解の一助としていただければ幸いです。

当社傘下の北陸銀行と北海道銀行は本年5月に、横浜銀行との3行によるシステムの共同利用をスタートさせました。新システムへの移行により利便性向上、事務の共通化、バックオフィスの共同化などグループのシナジーを追求してまいります。

平成22年度の期末配当につきましては、第1回第5種優先株式は1株当たり7円50銭、普通株式につきましては中間配当を見送りさせていただきましたが、期末配当につきましては昨年より25銭増配し、1株当たり3円75銭とさせていただきます。

これからも、経営理念であります「地域共栄」の精神で地域のお客さまとともに発展していくことを目指してまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも変わらぬご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

■ 計画の概要

名称	中期経営計画 “Road to 10”
期間	3年間(平成22年4月～25年3月)
位置付け	持続的成長に向けた新たな挑戦の期間 ～預金量10兆円金融グループへの足固め～
目指すグループ像	地域から親しまれ、頼りにされる金融グループ
取り組む課題	<ol style="list-style-type: none"> 1.不透明な経済環境に対応できる安定的収益基盤の構築 2.3行共同利用システム安定稼動・戦略的活用と人員・店舗の営業インフラ整備 3.新自己資本比率規制、増配、民間優先株償還に向けた剰余金積上げ

■ 平成25年3月期目標とする計数(2行合算・連結)

	平成25年3月期(目標)	平成23年3月期(実績)
総預金平残	9兆5,500億円	9兆2,776億円
貸出金平残(部直前)	7兆2,000億円	7兆1,133億円
コア業務純益	700億円	567億円
連結当期純利益	255億円	184億円
連結自己資本比率 (連結Tier1比率)	11.5%以上 (7.5%以上)	11.29% (7.45%)
OHR	58%	63.47%
ROA(コア業務純益ベース)	0.68%	0.56%
ROE(連結当期純利益ベース)	6%以上	4.60%
不良債権比率	3%程度	2.96%

■ 計画の基本方針

営業力の強化	経営の効率化	経営基盤の安定化
<ul style="list-style-type: none"> ■ 収益基盤の拡充・強化 ■ お客さま目線でのコンサルティング営業 ■ 有価証券運用の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 3行共同利用システムの安定稼動・戦略的活用 ■ シナジー効果の更なる追求 ■ 営業人員の増強 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資本の質の向上 ■ 普通株式の段階的増配

■ 営業力強化の取り組み

営業力強化のための

トリプル

R

Retail ～親しまれる～

- ▶ 取引先数拡大と取引多面化・メイン化推進

Region ～地域密着～

- ▶ 顧客利便性を考慮した店舗機能の提供
- ▶ 企業誘致、産学官連携、CSR、地域の成長業種支援

Relation ～頼りにされる～

- ▶ 活発なソリューション営業の展開

■ 経営効率化の取り組み

3行共同利用システム
平成23年5月に新システム稼働開始

共同調達

研修・監査共通化拡大

事務取扱要領共通化

IFRS等対応

- ▶ ・経費抑制
- ▶ ・人員捻出によるフロントシフト
- ▶ ・ガバナンス強化

営業の概況

■ ほくほくフィナンシャルグループ連結

(単位:億円)

	22年度		21年度
		前年度比	
経常収益	2,146	△120	2,267
経常利益	372	18	354
当期純利益	184	△8	192
自己資本比率	11.29%	0.46%	10.83%

当社における当連結会計年度の業績につきましては、連結経常収益は前年度比120億円減少し2,146億円、連結経常利益は前年度比18億円増加し372億円、連結当期純利益は前年度比8億円減少し184億円となりました。

連結自己資本比率は前年度比0.46ポイント上昇し11.29%となりました。

■ 北陸銀行・北海道銀行

(単位:億円)

	2行合算		
	22年度		21年度
		前年度比	
経常収益	1,958	△115	2,074
コア業務粗利益	1,554	△55	1,609
経費(臨時処理分を除く)	986	42	944
コア業務純益	567	△97	664
与信費用	145	△109	255
有価証券等関係損益	△10	△13	2
経常利益	370	1	368
当期純利益	196	△63	260

銀行の本来業務の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益やその他業務利益の減少と、3行共同利用システムへの更改に向けた経費の増加もあり、前年度比97億円減少の567億円となりました。

経常利益は、与信費用が前年度から大幅に減少し、前年度並みの370億円となりました。

当期純利益は、前年度に計上した特別利益がなくなったことなどにより196億円となりました。

(単位:億円)

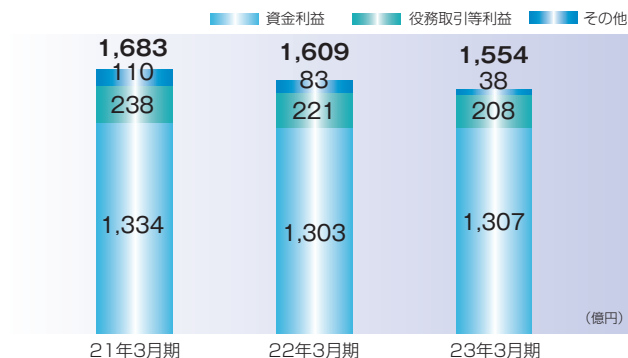
	北陸銀行		
	22年度		21年度
		前年度比	
経常収益	1,088	△48	1,137
コア業務粗利益	885	△15	901
経費(臨時処理分を除く)	538	20	518
コア業務純益	346	△36	383
与信費用	71	△63	134
経常利益	229	29	199
当期純利益	119	△37	156
自己資本比率	11.32%	0.52%	10.80%

(単位:億円)

	北海道銀行		
	22年度		21年度
		前年度比	
経常収益	870	△67	937
コア業務粗利益	668	△39	708
経費(臨時処理分を除く)	447	21	426
コア業務純益	221	△60	281
与信費用	74	△45	120
経常利益	141	△28	169
当期純利益	77	△26	103
自己資本比率	10.59%	0.40%	10.19%

損益の状況

■ コア業務粗利益<2行合算>



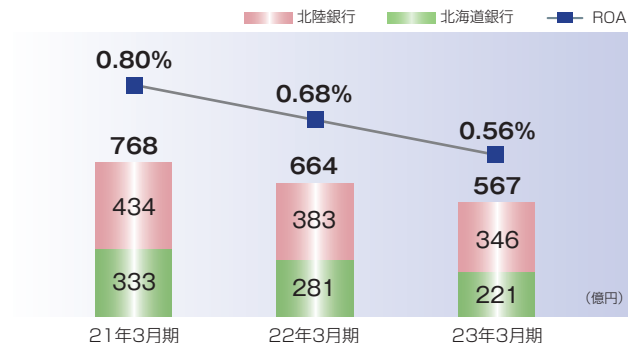
国債を中心とした有価証券の積み上げなどにより、資金利益は前年度比3億円増加し、1,307億円となりました。

役員取引等利益は為替手数料の減収と、住宅ローン推進によるローン保険料・保証料支払の増加などにより前年度比13億円減少し208億円となりました。

その他の利益は、実体経済低迷の影響を受け外国為替売買益が減少したことなどにより前年度比45億円減少の38億円となっております。

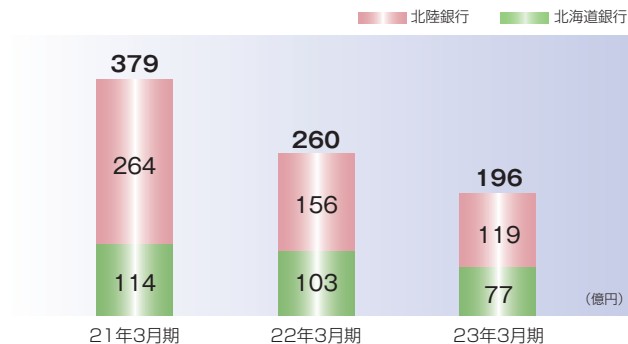
これらの結果、コア業務粗利益は前年度比55億円減少し、1,554億円となりました。

■ コア業務純益<2行合算>



23年5月の3行共同利用システム移行に向けた費用の増加などにより経費は42億円増加しております。コア業務粗利益の減少もあり、コア業務純益は前年度比97億円減少し、567億円となりました。

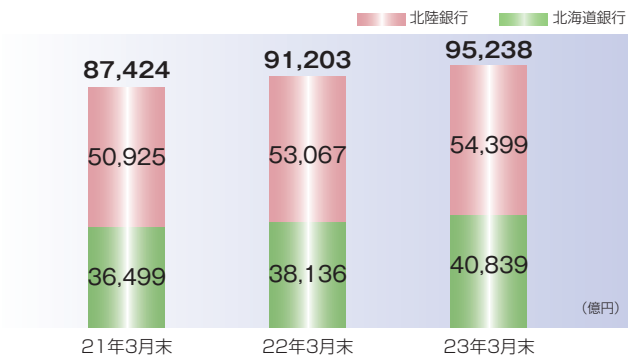
■ 当期純利益<2行合算>



従来より取り組んでまいりました企業再生支援などの取り組みもあり、与信費用が大幅に減少したことから経常利益は前年度並みを確保いたしました。前年度に子会社清算益が特別利益に計上されていたことや、今年度は法人税等調整額が増加したこともあり、当期純利益は63億円減少の196億円となりました。

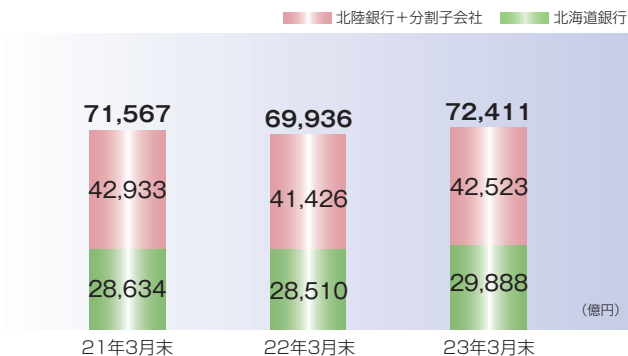
預金・貸出金の状況

■ 預金(含む譲渡性預金)＜2行合算＞



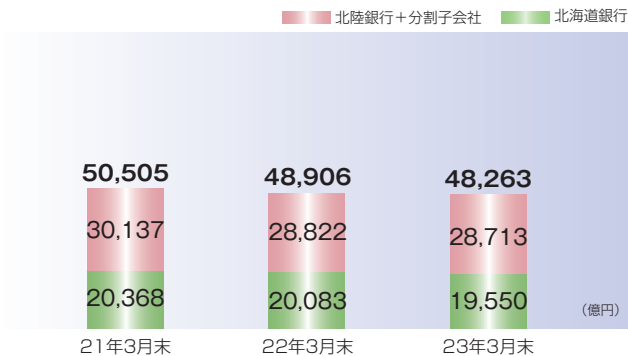
今期も個人のお客さまを中心に増加が続き、22年3月末比4,035億円増加の9兆5,238億円となりました。

■ 貸出金＜2行合算+分割子会社＞



地方公共団体等向け貸出や住宅系ローンの増加により、貸出金は22年3月末比2,474億円増加の7兆2,411億円となりました。

■ 中小企業等貸出残高＜2行合算+分割子会社＞

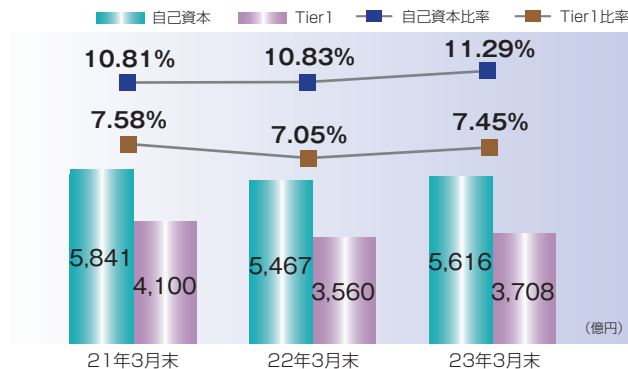


中小企業等貸出残高は22年3月末比642億円減少し、4兆8,263億円となりました。

円滑な地域金融への取り組みを重要な役割ととらえ、積極的に取り組んでおりますが、景気回復の足取りは重く、事業性資金ニーズの伸び悩みから貸出残高は減少いたしました。

健全性の指標

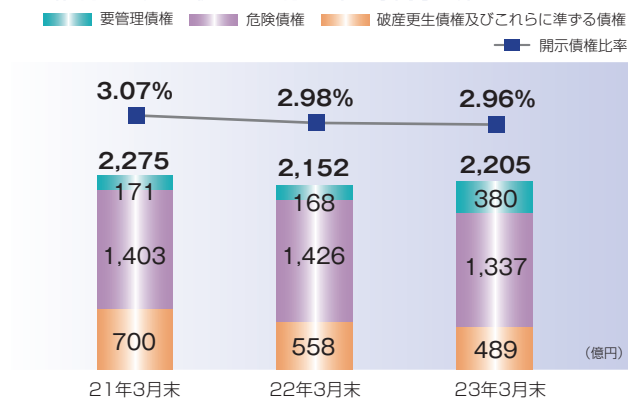
■ 自己資本比率<FG連結>



財務の健全性を示す自己資本比率は、22年3月末比0.46ポイント上昇し11.29%となりました。

利益の積み上げにより内部留保が増加したことでTier1は22年3月末比148億円増加し3,708億円、自己資本も148億円増加し、5,616億円となりました。

■ 金融再生法開示債権<2行合算+分割子会社>



景気の低迷が続く中、金融再生法開示債権は22年3月末比53億円増加し、2,205億円となりました。

開示債権比率は2.96%と引き続き低位に推移しております。

■ 格付

日本格付研究所

JCR



格付投資情報センター

R&I



「格付」は、利害関係のない第三者機関である格付会社が企業の信用度や債務履行能力を簡潔な記号で表したものです。

当社、北陸銀行および北海道銀行は、JCRおよびR&Iより「A(シングルAフラット)」の格付を取得しており、信用力は高いとの評価を得ております。

銀行持株会社



名 称 株式会社ほくほくフィナンシャルグループ
 本店所在地 富山市堤町通り1丁目2番26号
 業務の内容 1. 傘下子会社の経営管理
 2. 上記経営管理業務に付帯または関連する業務

- 資 本 金 708億9,500万円
- 発行済株式 普 通 株 式 1,391,630,146株
 第1回第5種優先株式 107,432,000株

■ 取締役・監査役の役職および氏名 (平成23年6月末現在)

役 職 名	氏 名	役 職 名	氏 名
取締役社長	高木 繁雄	取 締 役	庵 栄伸
取締役副社長	堰八 義博	取 締 役	大島 雄次
取 締 役	川合 哲	常勤監査役	須河 孝一
取 締 役	笹原 晶博	監 査 役	南 義弘
取 締 役	岩崎 民憲	監 査 役	林 則清
取 締 役	木谷 哲也	監 査 役	前泉 洋三

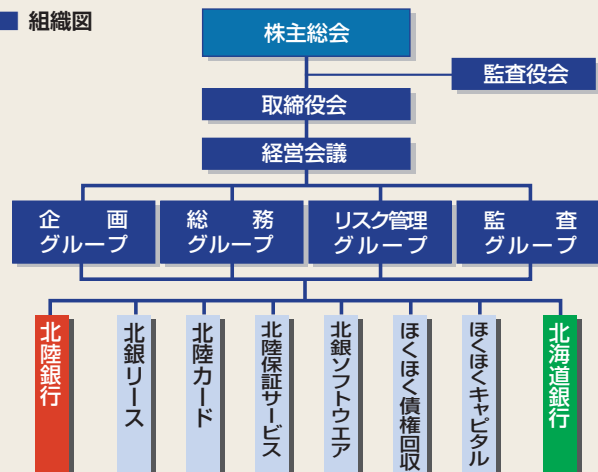
■ 従業員の数 専任者12名、兼務者44名、計56名

■ 設 立 日 平成15年9月26日

■ 各組織の構成および役割等

- 取 締 役 会 グループ全体の経営にかかる重要方針を決定し、持株会社ならびに子会社の経営管理・リスク管理・監査について管理監督します。
- 監 査 役 会 監査の方針、監査役の職務の執行に関する事項を決定し、取締役の職務の執行を監査します。
- 経 営 会 議 当社の常勤取締役で構成し、取締役会で決定した基本方針に基づき、全般的な業務執行方針および各部門の特に重要な業務執行に関する事項を決定します。

■ 組織図



■ グループ各社の内容

- (株) 北 陸 銀 行 ほくほくフィナンシャルグループの中核企業として、
- (株) 北海道銀行 総合金融サービスの提供を行っております。
- 北銀リース (株) リース業務、代金回収業務などを行っております。
- (株) 北陸カード JCB・VISAのカード業務、北陸銀行のカードローン「スーパーNOW」等の信用保証業務などを行っております。
- 北陸保証サービス (株) 住宅ローンやマイカーローンなどの個人向けローンの信用保証業務、不動産担保調査受託などを行っております。
- 北銀ソフトウェア (株) コンピュータシステムの開発・保守・管理業務の受託および販売業務などを行っております。
- ほくほく債権回収 (株) 銀行の個人向けローン管理業務受託、地域の企業再生支援およびグループ内の債権回収・整理業務などを行っております。
- ほくほくキャピタル (株) 株式公開の立案・アドバイザ業務、社債引き受け業務、ベンチャーキャピタル業務などを行っております。

■ グループの広域ネットワーク

ほくほくフィナンシャルグループは、北陸三県および北海道を主要営業基盤とする広域金融グループとして、三大都市圏を含む情報ネットワークと総合金融サービス機能を活用し、地域のお客さまの繁栄に貢献してまいります。

地域からお預かりしたご預金は、地域のお客さまにご融資し、地域経済発展に貢献しております。

北陸三県 148カ店

富山県	90カ店
石川県	36カ店
福井県	22カ店

三大都市圏 17カ店

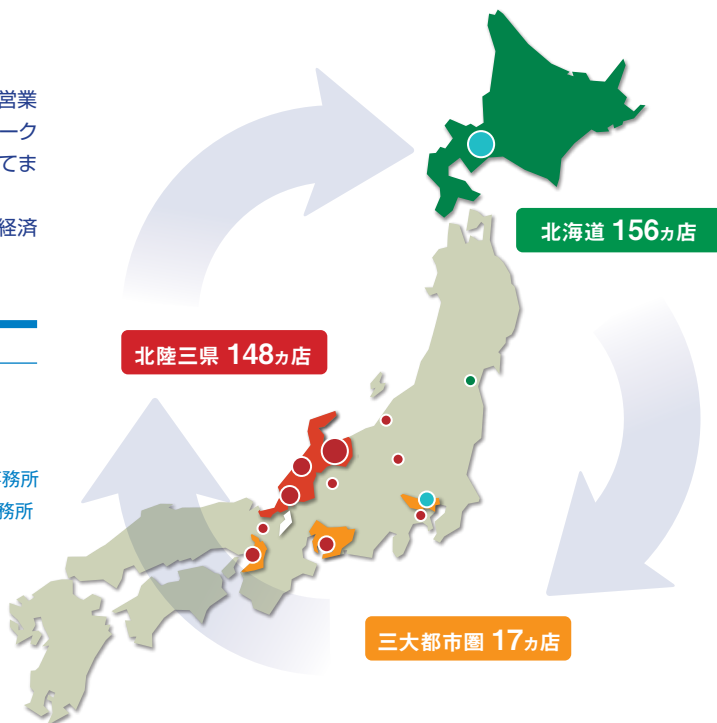
東京・横浜	10カ店
大阪・京都	4カ店
名古屋	3カ店

その他 4カ店

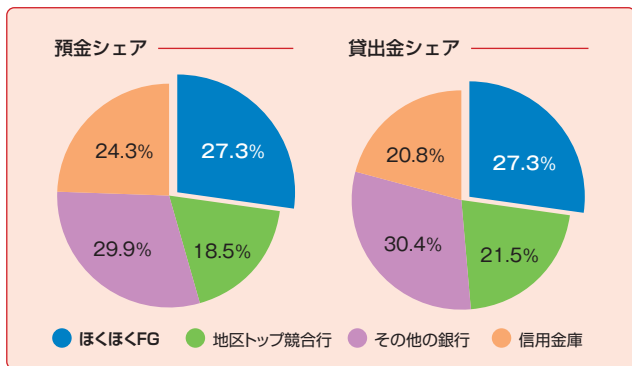
(仙台・新潟・長野・高山)

海外

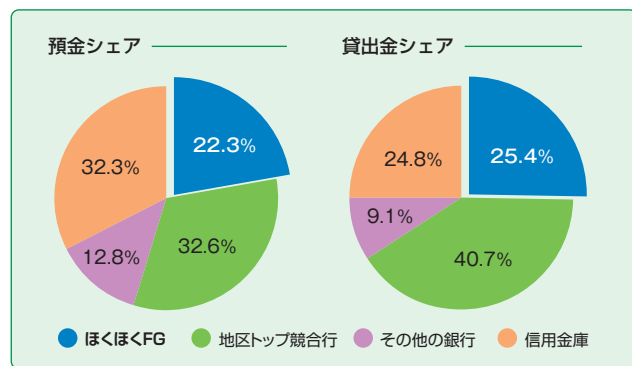
- ・上海駐在員事務所
 - ・瀋陽駐在員事務所
 - ・大連駐在員事務所
 - ・シンガポール駐在員事務所
 - ・ニューヨーク駐在員事務所
 - ・ユジノサハリンスク駐在員事務所
 - ・ロンドン駐在員事務所
- (平成23年3月末)



■ 北陸三県内 預金・貸出金のシェア



■ 北海道内 預金・貸出金のシェア

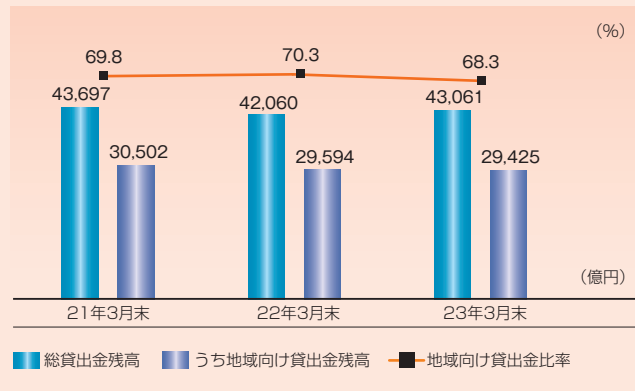


※シェアは、平成22年9月末現在 ※北陸財務局「北陸地域主要経済指標」、北海道財務局「北海道金融月報」、日本銀行「都道府県別預金・現金・貸出金」より当社にて作成。
 ※「地区トップ競合行」「その他の銀行」のシェアは推定値。ゆうちょ銀行は除く。

貸出金の状況

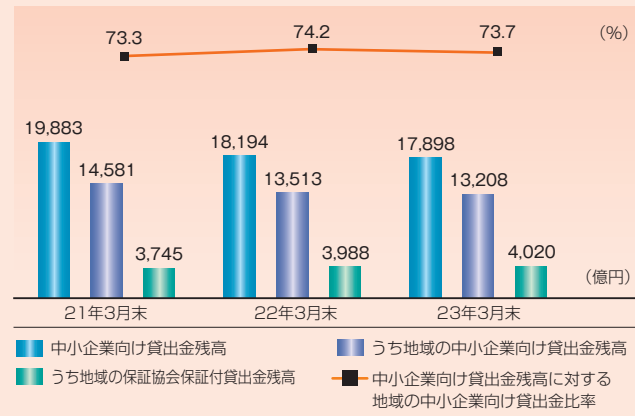
■ 地域向け貸出金の状況

地域向け貸出金は2兆9,425億円となり、総貸出金のうち、地域向け貸出金比率は68.3%となっております。



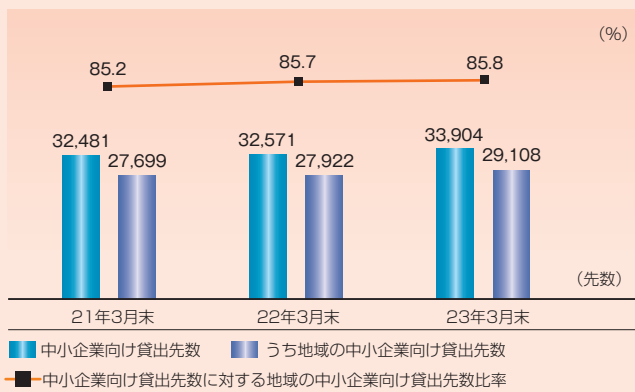
■ 中小企業向け貸出金の状況

中小企業向け貸出金は1兆7,898億円で、地域の中小企業向け貸出金は1兆3,208億円と中小企業向け貸出金の73.7%を占めております。

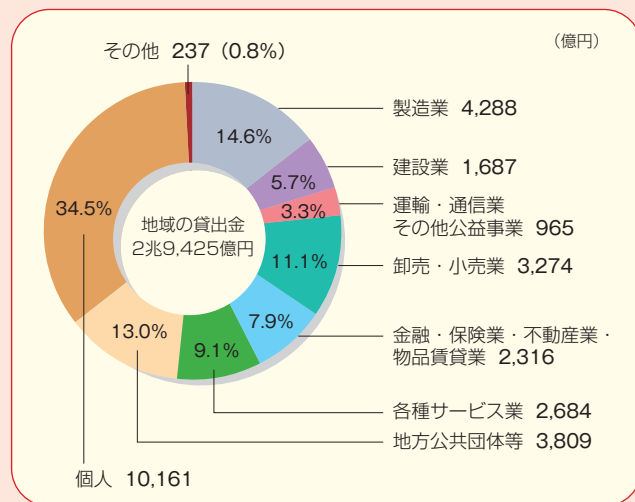


■ 中小企業向け貸出先数の状況

中小企業向け貸出先数は33,904先で、そのうち地域の中小企業向け貸出先数は29,108先と85.8%を占めております。



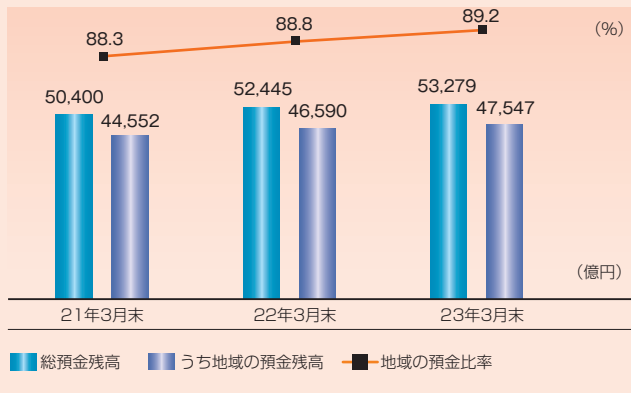
■ 地域の業種別貸出残高(平成23年3月末)



預金等の状況

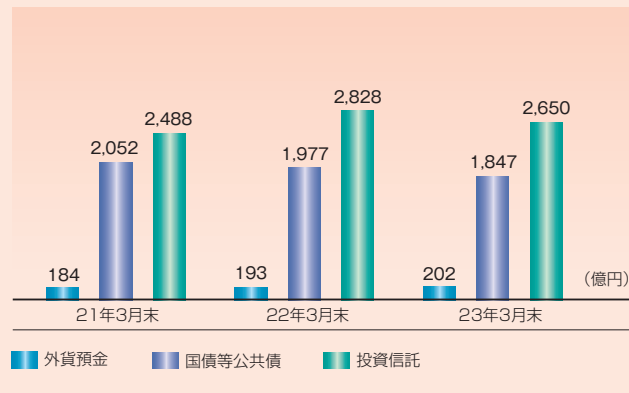
■ 地域の預金の状況

総預金は5兆3,279億円、うち4兆7,547億円が地域の預金で、総預金の89.2%を占めております。



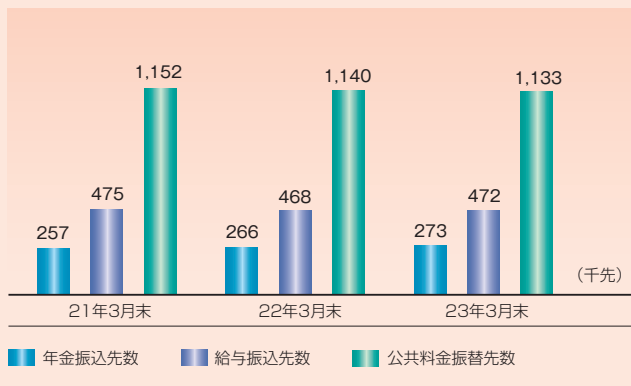
■ 投資型金融商品の状況

23年3月末の個人のお客さまに対する投資型金融商品の合計残高は4,700億円となりました。今後も、商品ラインナップの充実および販売体制の整備に努めてまいります。



■ 決済サービスのご利用状況

年金振込は27万3千先、給与振込は47万2千先、公共料金の自動口座振替は113万3千先と多くのお客さまに家計のメイン口座として北陸銀行をご利用いただいております。



● 多様化する資産運用ニーズへの取り組み



資産運用セミナー(ドリームセンター武蔵)

北陸銀行では、お客さまの多様化する資産運用ニーズにお応えするために幅広く商品を取り揃えております。お客さまの運用資産や投資の考え方を踏まえ、丁寧に分かり

やすい商品説明を心がけております。また、ファイナンシャルプランナー資格者を営業店へ配置し、お客さまのご要望に適切にお応えするよう努めております。

このほかにも、商品内容や現状の運用環境などを説明する「資産運用セミナー」を各地で開催しております。

地域密着型金融の具体的取り組み

北陸銀行は、地域密着型金融の本質である「地域とともに生きる」という志のもと、地域の皆さまのニーズにお応えし、皆さまとともに歩み、成長・発展することを目指します。

1 ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

● 創業・新事業支援

- ・産学連携ヒアリングシートの活用により、大学と取引先をマッチングし、新事業の共同研究をサポート
- ・技術移転支援の一環として、大学の新技術説明会を後援
- ・中小企業応援センターを活用し、専門家の派遣を通じ、創業・新事業展開支援等を実施



「中小企業応援センター」セミナーの実施

中小企業応援センター事業の実施機関として、当行が代表法人となり「とやま中小企業応援ネットワーク」を設立。経営課題解決のため、各種テーマでのセミナーを実施しました。

▲「経営力強化セミナー」の様子

● 経営改善支援

各種相談会やセミナーを開催し、経営改善に繋がる情報提供、各種コンサルティングを実施

- ・事業承継・M&Aセミナー（9回、参加累計302名）
- ・グローバルセミナー（9回、参加累計318名）
- ・ビジバ倶楽部セミナー（6回、参加累計167名）

● 事業再生支援

経営改善支援室を中心に再建計画策定支援、外部機関との連携等により事業再生支援を強化

● 事業承継支援

専門知識を有する本部PB（プライベート・バンキング）チーム、M&Aチームおよび営業店PBデスクが中心となり、きめ細かな訪問提案活動によるコンサルティングを実施

【具体的目標】

目 標 項 目	22年度目標	22年度実績
債務者区分ランクアップ件数	70件	93件
事業承継提案書作成件数	400件	363件

2 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底

幅広い世代に対し、企業評価能力、金融円滑化のための融資管理能力向上に繋がる各種行内研修を実施



「業界の達人」養成講座

相談機能の向上を図るべく、業種別専門知識を学ぶ「業界の達人養成講座」を休日余暇セミナーとして開催。お取引先にも講師となっていたいただき、企業の技術力や将来性を的確に評価するポイントの習得に努めました。

【具体的目標】

目 標 項 目	22年度目標	22年度実績
研修受講者数（融資審査関連）	500人	633人

3 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

- ・当グループの広域店舗網、他行との広域連携や海外ネットワークを活用した、顧客僚店貢献運動、ビジネスマッチングの取組強化
- ・行内有資格者によるMBA講座、次世代経営者養成講座、インターンシップの開催を通じ、地域を担う若い世代へ金融・経済知識を普及



「地方銀行フードセレクション2010」

食をテーマに、取引先の販路拡大を目的とする商談会を、北海道銀行を含む地銀33行により開催しました。660社がブースを出店、8,000名を超えるバイヤーが来場し、数多くの商談が行われました。

【具体的目標】

目 標 項 目	22年度目標	22年度実績
「顧客僚店貢献運動」成功事例件数	10,000件	9,325件
各種研修講師派遣	150件	153件

Topics

22年6月～11月 5出張所が支店昇格

中期経営計画「ハイブリッドI・S・M 2010」の店舗戦略に基づいて、6月に高原町、7月に南富山、そして11月には小松南、光が丘、太閤山の各出張所が、それぞれ支店に昇格しました。

フルバンキング機能を備えつつ、主に個人や家業の皆さまに特化したサービスを提供し、これまで以上にそれぞれの地域で「親しまれ、頼りにされる銀行」を目指していきます。

23年1月 大連駐在員事務所開設

北陸銀行では、5カ所目の海外拠点として中国・大連市に駐在員事務所を開設しました。

大連駐在員事務所は、大連を中心とした東北地域、北京、天津などの華北地域を担当エリアとし、お取引先に対し、同地域の経済・金融に関する情報提供を行うとともに、進出企業や進出予定企業のビジネスをサポートしていきます。

また、ビジネスマッチングや政府機関との連携強化も図っていきます。



22年10月

「中国バイヤーズ・サミット」富山と金沢で開催

富山市と金沢市で「中国バイヤーズ・サミット」を開催しました。



商談会では、中国への販路開拓を目指す食品メーカーの担当者が、上海、大連の食品関連企業から招かれたバイヤーに自慢の商品を売り込み、活発な商談が行われました。中国では、富裕層を中心に食の安心安全に対する関心が高まっており、北陸銀行では地元企業と中国企業の接点を増やし、中国販路の拡大を後押ししていきます。

なお、この商談会に合わせて、中国貿易セミナーと経済動向セミナーも開催しました。

23年3月 「ほくぎんポイント倶楽部サロン」オープン

高岡市の中心市街地賑わい創出事業に協力し、北陸銀行の会員顧客向け施設「ほくぎんポイント倶楽部サロン」を御旅屋セリオ6階にオープンしました。



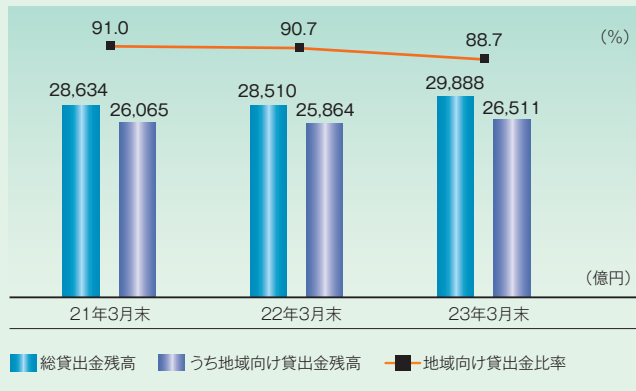
サロン内には、会員の皆さまがゆっくりと寛げるコミュニティスペースや、各種セミナーを開催するセミナールームを設けています。

また、街の中の小さな美術館として、施設の内外に「ほくぎんアートギャラリー」を設置し、訪れる皆さまに心が落ち着く空間を提供いたします。

貸出金の状況

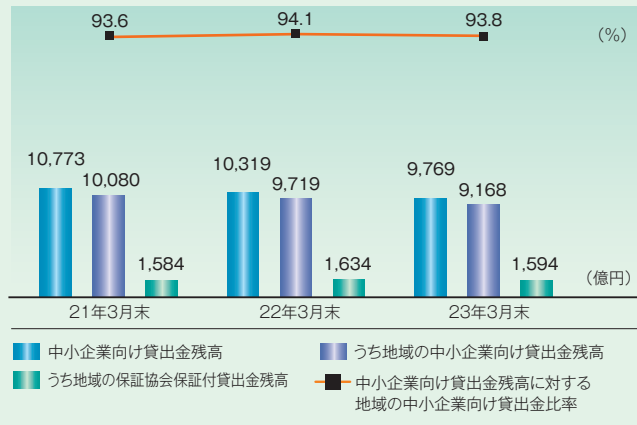
■ 地域向け貸出金の状況

地域向け貸出金は、2兆6,511億円となりました。総貸出金のうち地域向け比率は88.7%となっております。



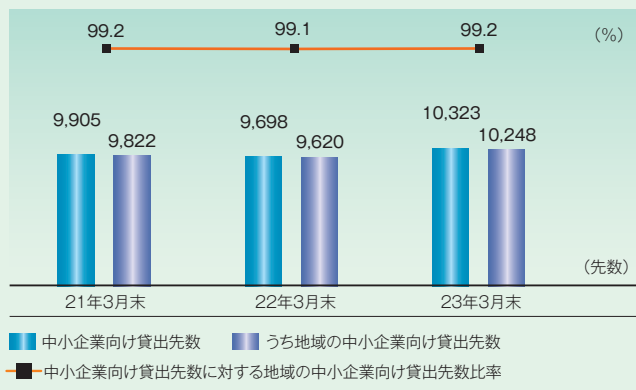
■ 中小企業向け貸出金の状況

中小企業向け貸出金は9,769億円で、地域の中小企業向け貸出金は9,168億円となっております。

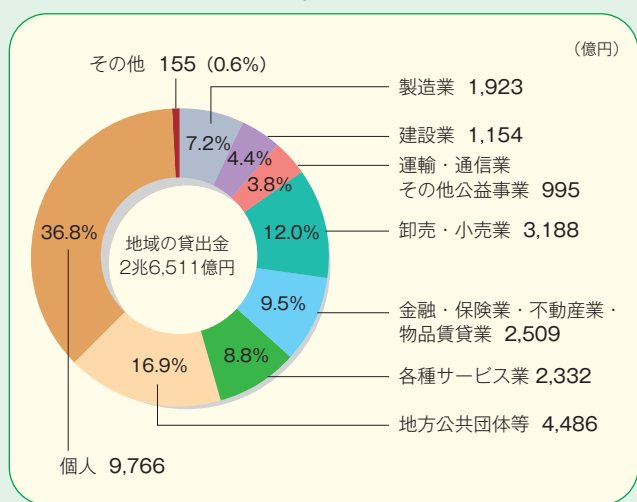


■ 中小企業向け貸出先数の状況

中小企業向け貸出先数は10,323先で、そのうち地域の中小企業向けは10,248先となっております。



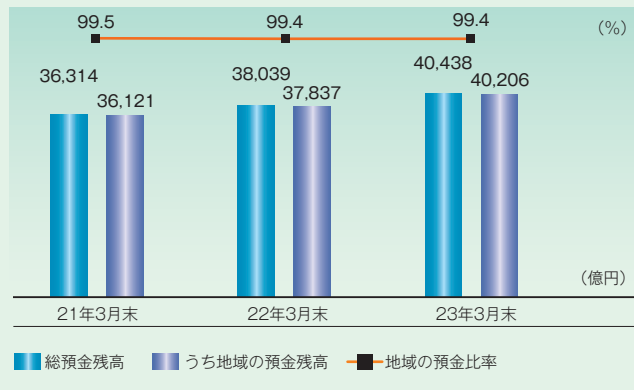
■ 地域の業種別貸出残高(平成23年3月末)



預金等の状況

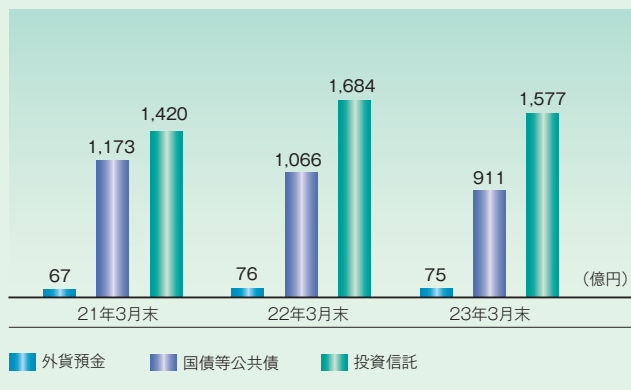
■ 地域の預金の状況

総預金は4兆438億円となりました。うち4兆206億円が地域の預金で、総預金の99.4%を占めております。



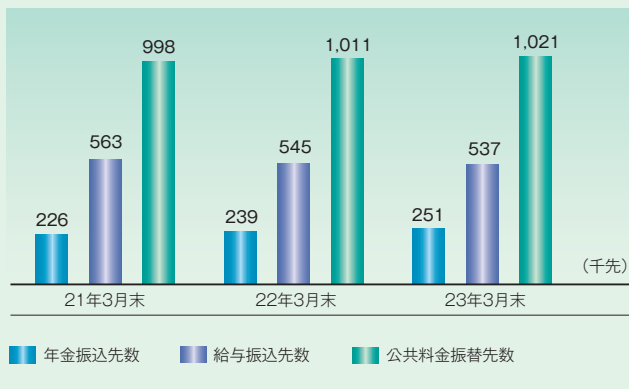
■ 投資型金融商品の状況

個人のお客さまに対する投資型金融商品の残高は、平成23年3月末で2,564億円となりました。



■ 決済サービスのご利用状況

年金振込は25万1千先、給与振込は53万7千先、公共料金の自動振替は102万1千先と多くのお客さまに家計のメイン口座としてご利用いただいております。



● 「ジャンボ宝くじ付き定期預金」発売継続!

「夢がついてくる!」でおなじみの、「ジャンボ宝くじ付き定期預金」は、平成15年の取扱開始以来、ご好評をいただいております。

「平成22年第596回「年末ジャンボ宝くじ」」でも、1等前後賞3億円の高額当せんが出ており、「4年連続の高額当せん」の実績はマスコミの注目を集めております。

現在では、北海道銀行の看板商品と言えるこの定期預金は、たくさんのお客さまに親しまれております。



地域密着型金融の具体的取り組み

北海道銀行は、北海道の強みを伸ばし弱みを克服することにより地域経済のさらなる活性化を図るため、ものづくり企業や農業事業者の支援に積極的に取り組んでおります。

1 ライフサイクルに応じた取引先企業の支援の一層の強化

● 創業・新事業支援

- ベンチャー向け投資ファンド「道銀どさんこファンド」、「札幌元気チャレンジファンド」などを活用した創業、新事業への支援を継続
- 農商工連携への取組強化による創業、新事業支援

● 経営改善支援

- 個別企業に対して、コンサルティング機能を発揮した総合経営支援、各種セミナー・相談会開催による情報提供を実施
- モノづくり、カイゼン関係セミナー（6回、参加累計483名）
 - 中国・ロシア関係セミナー（7回、参加累計1,899名）
 - 事業承継・M&A関係セミナー（2回、参加累計70名）



モノづくり企業支援への取り組み

第二次産業の育成支援を目的として、道内企業とのリレーション強化を図るため、道内4つの高等専門学校と「産学連携協定」を締結しているほか、道内のモノづくり企業に先進地の取り組みを紹介し、人材育成などに活かしていただくための研修会等を行っております。

▲ 愛知県での「モノづくり経営者研修会」の様子

● 事業再生支援

経営相談、経営指導、経営改善計画策定支援のほか、事業再生ファンドの活用、中小企業支援協議会などと協調した事業再生支援への取り組みを強化

● 事業承継支援

道銀経営塾による人材育成サポートのほか、プライベートバンキング機能や、M&Aアドバイザー業務の活用による支援を実施

【具体的目標】

目標項目	22年度目標	22年度実績
債務者区分ランクアップ件数	45件	54件
コンサルティング先数	400社	514社

2 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業に適した資金供給手法の徹底

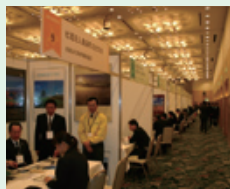
- 債権流動化プログラムの活用、売掛債権担保融資への積極的取り組み
- 若手・中堅・役員向け階層研修会実施による人材の育成、特に若年層に対しては法人融資担当者全員を対象とした研修会を実施し、実態把握力、融資判断力を強化

【具体的目標】

目標項目	22年度目標	22年度実績
債権流動化、動産、債権譲渡担保融資、アグリワイド実績	30,000百万円	25,227百万円
研修会受講者数(融資審査関連)	400人	462人

3 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

- 北海道の特性、地域性にフォーカスし、グループの広域ネットワークを活用したビジネスマッチングへの取組強化
- 職場体験学習、インターンシップ等を通じた次世代育成支援事業への取組強化



【北海道「観光」特別商談会from中国】

平成22年度には「食」「観光」「農業」など様々なテーマの商談会を多数開催しており、11月に開催した「観光」商談会では、出展企業35社、国内エージェント13社、中国エージェント13社が参加し、活発な商談が行われました。

目標項目	22年度目標	22年度実績
ビジネスマッチング成約件数	300件	812件
	21年度実績	22年度実績
ビジネスマッチング紹介件数	1,662件	1,321件

親子で銀行体験

親子で銀行について学べる機会を提供。夏休みと冬休みに合わせ開催し、1,100名を超える皆さまに参加いただきました。



Topics

22年10月「ロシア極東農業視察」開催

極東ロシアにおけるアグリビジネスの展開支援を目的に「ロシア極東農業視察」をユジノサハリンスクで開催しました。

3日間にわたり、沿海州農業アカデミーの見学や学長との会談、また沿海州野菜栽培試験場や製糖工場などを視察しました。

今後も、北海道銀行のユジノサハリンスク事務所を通じて、お取引先の海外展開をサポートしてまいります。



22年12月 室蘭支店オープン

お客さまにご利用いただきやすいよう、室蘭支店を移転新築しました。新店舗には、資産運用をご相談いただけるブースや全自動貸金庫のほか、住宅ローンプラザを設置しております。



22年11月 60周年記念事業 女子カーリングチームサポート開始

北海道銀行はこれまでに、北海道カーリング協会、日本カーリング協会の設立に関わり、それぞれの初代会長を森鼻頭取(当時)が務めるなどカーリングの普及に努めてきました。

スポーツ振興を通じたCSR活動として、オリンピック出場経験のある小笠原歩(旧姓 小野寺)選手、船山弓枝(旧姓 林)選手に、吉田知那美選手、小野寺佳歩選手を加えた4選手による女子カーリングチーム「北海道銀行フォルティウス」をサポートしています。



23年3月~4月 外部専門機関との業務提携拡大

北海道銀行では、外部専門機関との連携や業務提携を拡大しています。

- ・3月29日、北海道大学観光学高等研究センターと、観光創造研究・教育を支援し、地域の産業振興に寄与することを目的に連携協力協定を締結。
- ・4月1日、北海道立総合研究機構と、経営資源の相互活用により、北海道経済の発展に寄与することを目的に連携協定を締結。
- ・4月5日、日本貿易保険(NEXI)と中小企業の海外進出や輸出の支援を目的に業務提携を締結。

これらの各専門分野との連携強化を通じて企業支援の充実を図ってまいります。



貸借対照表(平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
流動資産	13,533	流動負債	104
現金及び預金	12,019	預り金	3
前払費用	1	未払費用	31
未収収益	22	未払配当金	65
未収還付法人税等	1,483	未払消費税等	4
その他	6	その他	0
固定資産	237,872	固定負債	10,152
有形固定資産	1	社債	10,000
器具及び備品	1	役員退職慰労引当金	152
無形固定資産	1		
商標権	0	負債の部合計	10,256
ソフトウェア	0	純資産の部	
投資その他の資産	237,870	資本金	70,895
関係会社株式	227,870	資本剰余金	142,087
関係会社長期貸付金	10,000	資本準備金	82,034
その他	0	その他資本剰余金	60,052
		利益剰余金	28,732
		その他利益剰余金	28,732
		繰越利益剰余金	28,732
		自己株式	△565
		株主資本合計	241,149
		純資産の部合計	241,149
資産の部合計	251,406	負債及び純資産の部合計	251,406

損益計算書(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(単位:百万円)

営業収益	8,130
関係会社受取配当金	7,369
関係会社受入手数料	761
営業費用	668
販売費及び一般管理費	668
営業利益	7,462
営業外収益	266
関係会社貸付金利息	231
その他の営業外収益	35
営業外費用	358
社債利息	230
社債発行費	49
事務委託費	77
その他の営業外費用	0
経常利益	7,370
特別損失	0
固定資産処分損	0
税引前当期純利益	7,370
法人税、住民税及び事業税	1
法人税等調整額	42
法人税等合計	44
当期純利益	7,326

株主資本等変動計算書(平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本								純資産 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計			
平成22年3月31日残高	70,895	82,034	60,053	142,088	27,881	27,881	△554	240,310	240,310
事業年度中の変動額									
剰余金の配当	-	-	-	-	△6,475	△6,475	-	△6,475	△6,475
当期純利益	-	-	-	-	7,326	7,326	-	7,326	7,326
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	△13	△13	△13
自己株式の処分	-	-	△0	△0	-	-	2	1	1
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
事業年度中の変動額合計	-	-	△0	△0	850	850	△10	838	838
平成23年3月31日残高	70,895	82,034	60,052	142,087	28,732	28,732	△565	241,149	241,149

連結貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
現金預け金	406,848	預金	9,347,057
コールローン及び買入手形	87,056	譲渡性預金	144,686
買入金銭債権	111,451	コールマネー及び売渡手形	20,000
特定取引資産	9,303	特定取引負債	2,690
金銭の信託	3,994	借入金	327,738
有価証券	2,326,508	外国為替	131
貸出金	7,224,636	社債	41,500
外国為替	13,234	その他負債	150,519
その他資産	168,565	退職給付引当金	7,779
有形固定資産	112,167	役員退職慰労引当金	529
建物	37,001	偶発損失引当金	2,771
土地	65,282	睡眠預金払戻損失引当金	1,850
リース資産	1,059	再評価に係る繰延税金負債	8,901
建設仮勘定	441	支払承諾	102,240
その他の有形固定資産	8,382	負債の部合計	10,158,395
無形固定資産	36,425	純資産の部	
ソフトウェア	7,271	資本金	70,895
のれん	28,205	資本剰余金	153,188
リース資産	186	利益剰余金	182,131
その他の無形固定資産	761	自己株式	△ 600
繰延税金資産	63,572	株主資本合計	405,614
支払承諾見返	102,240	その他有価証券評価差額金	11,419
貸倒引当金	△ 80,950	繰延ヘッジ損益	3
		土地再評価差額金	8,683
		その他の包括利益累計額合計	20,105
		少数株主持分	938
資産の部合計	10,585,054	純資産の部合計	426,658
		負債及び純資産の部合計	10,585,054

連結損益計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

経常収益	214,672
資金運用収益	148,475
(うち貸出金利息)	(122,743)
(うち有価証券利息配当金)	(22,962)
役員取引等収益	39,045
特定取引収益	1,225
その他業務収益	22,464
その他経常収益	3,461
経常費用	177,452
資金調達費用	17,511
(うち預金利息)	(13,141)
役員取引等費用	12,414
その他業務費用	14,962
営業経費	109,580
その他経常費用	22,982
経常利益	37,220
特別利益	68
特別損失	1,991
税金等調整前当期純利益	35,298
法人税、住民税及び事業税	5,727
過年度法人税等	829
過年度法人税等戻入額	△ 51
法人税等調整額	10,234
法人税等合計	16,740
少数株主損益調整前当期純利益	18,557
少数株主利益	152
当期純利益	18,404

連結株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	その他の 包括利益 累計額合計		
平成22年3月31日残高	70,895	153,189	170,100	△589	393,595	9,180	△17	8,784	17,947	781	412,324
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当	-	-	△6,475	-	△6,475	-	-	-	-	-	△6,475
当期純利益	-	-	18,404	-	18,404	-	-	-	-	-	18,404
自己株式の取得	-	-	-	△13	△13	-	-	-	-	-	△13
自己株式の処分	-	△0	-	2	1	-	-	-	-	-	1
土地再評価差額金の取崩	-	-	101	-	101	-	-	-	-	-	101
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	2,238	20	△101	2,158	157	2,315
連結会計年度中の変動額合計	-	△0	12,030	△10	12,018	2,238	20	△101	2,158	157	14,334
平成23年3月31日残高	70,895	153,188	182,131	△600	405,614	11,419	3	8,683	20,105	938	426,658

貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部	
現金預け金	250,493
コールローン	24,562
買入金銭債権	111,431
特定取引資産	6,966
有価証券	1,217,508
貸出金	4,252,329
外国為替	6,149
その他資産	60,333
有形固定資産	84,405
無形固定資産	6,057
繰延税金資産	41,955
支払承諾見返	59,288
貸倒引当金	△ 42,478
資産の部合計	6,079,002

負債の部

預金	5,327,953
譲渡性預金	111,968
コールマネー	20,000
特定取引負債	2,690
借入金	252,538
外国為替	77
その他負債	65,300
退職給付引当金	90
役員退職慰労引当金	231
偶発損失引当金	2,145
睡眠預金払戻損失引当金	1,207
再評価に係る繰延税金負債	8,901
支払承諾	59,288
負債の部合計	5,852,392
純資産の部	
資本金	140,409
資本剰余金	14,998
資本準備金	14,998
利益剰余金	50,758
利益準備金	6,003
その他利益剰余金	44,754
繰越利益剰余金	44,754
株主資本合計	206,166
その他有価証券評価差額金	11,757
繰延ヘッジ損益	3
土地再評価差額金	8,683
評価・換算差額等合計	20,443
純資産の部合計	226,609
負債及び純資産の部合計	6,079,002

損益計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

経常収益	108,887
資金運用収益	84,079
(うち貸出金利息)	(69,131)
(うち有価証券利息配当金)	(12,505)
役員取引等収益	19,959
特定取引収益	1,143
その他業務収益	1,480
その他経常収益	2,224
経常費用	85,971
資金調達費用	11,013
(うち預金利息)	(8,076)
役員取引等費用	7,060
その他業務費用	646
営業経費	56,100
その他経常費用	11,150
経常利益	22,915
特別利益	27
特別損失	1,744
税引前当期純利益	21,198
法人税、住民税及び事業税	87
過年度法人税等	381
過年度法人税等戻入額	△51
法人税等調整額	8,862
法人税等合計	9,280
当期純利益	11,918

株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						評価・換算差額等				純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金繰越利益剰余金							利益剰余金合計
平成22年3月31日残高	140,409	14,998	14,998	5,144	37,888	43,033	198,441	7,611	△17	8,784	16,377	214,819
事業年度中の変動額												
剰余金の配当	-	-	-	858	△5,153	△4,294	△4,294	-	-	-	-	△4,294
当期純利益	-	-	-	-	11,918	11,918	11,918	-	-	-	-	11,918
土地再評価差額金の取崩	-	-	-	-	101	101	101	-	-	-	-	101
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	4,146	20	△101	4,065	4,065
事業年度中の変動額合計	-	-	-	858	6,865	7,724	7,724	4,146	20	△101	4,065	11,790
平成23年3月31日残高	140,409	14,998	14,998	6,003	44,754	50,758	206,166	11,757	3	8,683	20,443	226,609

貸借対照表 (平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
現金預け金	156,060	預金	4,043,809
コールローン	62,494	譲渡性預金	40,117
商品有価証券	2,336	借入金	100,100
金銭の信託	3,994	外国為替	53
有価証券	1,097,665	社債	15,000
貸出金	2,988,825	その他負債	59,575
外国為替	7,085	退職給付引当金	7,346
その他資産	70,730	役員退職慰労引当金	123
有形固定資産	32,054	偶発損失引当金	626
無形固定資産	1,842	睡眠預金払戻損失引当金	643
繰延税金資産	21,896	支払承諾	27,581
支払承諾見返	27,581		
貸倒引当金	△ 24,047		
		負債の部合計	4,294,977
		純資産の部	
		資本金	93,524
		資本剰余金	16,795
		資本準備金	16,795
		利益剰余金	39,079
		利益準備金	4,956
		その他利益剰余金	34,122
		繰越利益剰余金	34,122
		株主資本合計	149,398
		その他有価証券評価差額金	4,144
		評価・換算差額等合計	4,144
		純資産の部合計	153,542
資産の部合計	4,448,519	負債及び純資産の部合計	4,448,519

損益計算書 (平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(単位:百万円)

経常収益	87,002
資金運用収益	64,175
(うち貸出金利息)	(53,306)
(うち有価証券利息配当金)	(10,543)
役員取引等収益	15,034
その他業務収益	6,420
その他経常収益	1,372
経常費用	72,888
資金調達費用	6,501
(うち預金利息)	(5,090)
役員取引等費用	7,096
その他業務費用	2,856
営業経費	47,025
その他経常費用	9,408
経常利益	14,113
特別利益	11
特別損失	234
税引前当期純利益	13,890
法人税・住民税及び事業税	4,753
法人税等調整額	1,369
法人税等合計	6,123
当期純利益	7,767

株主資本等変動計算書 (平成22年4月1日~平成23年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本						評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金繰越利益剰余金				利益剰余金合計	
平成22年3月31日残高	93,524	16,795	16,795	4,342	30,040	34,383	144,702	6,041	6,041	150,744
事業年度中の変動額										
剰余金の配当	-	-	-	614	△3,685	△3,071	△3,071	-	-	△3,071
当期純利益	-	-	-	-	7,767	7,767	7,767	-	-	7,767
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	-	-	-	-	-	-	-	△1,897	△1,897	△1,897
事業年度中の変動額合計	-	-	-	614	4,081	4,696	4,696	△1,897	△1,897	2,798
平成23年3月31日残高	93,524	16,795	16,795	4,956	34,122	39,079	149,398	4,144	4,144	153,542

株式会社のご案内

決算期	毎年3月31日
定時株主総会の基準日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
1単元の株式数	1,000株
証券コード	8377
上場金融商品取引所 (普通株式)	東京証券取引所(第一部) および札幌証券取引所
公告方法	電子公告により当社ホームページに 掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によ って電子公告による公告をすることが できない場合は、 日本経済新聞に掲載します。 ※公告掲載の当社ホームページアドレス (決算公告を含む) (http://www.hokuhoku-fg.co.jp/)
株主名簿管理人・ 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

株式に関する諸手続きについて

① 普通株式をご所有の株主さま

- 「一般口座」に記録されている株式
住所変更等の各種お届け出につきましても、口座を開設されてい
る証券会社等が窓口になります。
- 「特別口座」に記録されている株式
「特別口座」に記録された株式に関する振替請求や、住所変更等の
各種お届け出につきましても、特別口座管理機関であるみずほ信託
銀行およびみずほインベスターズ証券の本支店が窓口になります。

② 優先株式をご所有の株主さま

みずほ信託銀行およびみずほインベスターズ証券の本支店に
おいて各種ご請求・お届け出を承っております。

お問合せ先・郵便物の送付先

- 各種お手続きに関するご質問・お手続き書類の請求先

みずほ
フリーダイヤル **0120-288-324**

受付時間：平日9時～17時(土曜日・日曜日・祝祭日を除く)

- 郵送によるお手続き書類の提出先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

配当金のお受け取りについて

◎ 配当金の口座振込等を指定されていない方は、同封の「配当金領収証」により、
払渡しの期間内にお受け取りくださいますようお願い申し上げます。

◎ 配当金のお受け取り忘れはございませんか？

- 当社定款の規定により、支払開始から5年を過ぎると配当金のお受け取りができなくなります。
- 過去の配当金につきまして未だお受け取りいただいていない配当金がございましたら、
上記のみずほ信託銀行株式会社フリーダイヤルへお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。
- 配当金を確実ににお受け取りいただくために、口座振込等でのお受け取りをお勧めいたします。

■ 経営理念

「ほくほくフィナンシャルグループ」は、広域地域金融グループとしてのネットワークと総合的な金融サービス機能を活用して、地域とお客さまの繁栄に貢献し、ともに発展しつづけます。

地域共栄 社会的使命を实践し、地域社会とお客さまとともに発展します。

公正堅実 公正かつ堅実な経営による健全な企業活動を目指し、信頼に応えます。

進取創造 創造と革新を追求し、活力ある職場から魅力あるサービスを提供します。

■ Hokuhoku Network

北陸と北海道、そして三大都市圏に営業拠点を持つ新しい時代の広域金融グループとして、地域経済発展のために、最新・最良の金融サービスが提供できるよう、新しいビジネスに挑戦してまいります。

Osaka Nagoya Tokyo

■ コーポレートマーク



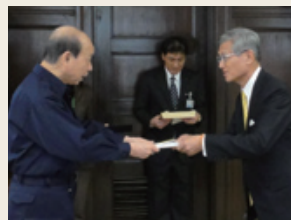
垂直に伸びるゴールドのグラデーションは企業の成長性と収益性を表し、緩やかな弧を描くラインは広域地銀としてのネットワークを表現しています。また、落ち着いた色のあるブルーの正方形は、組織の揺るぎない安定性をイメージしており、その正方形の中に垂直のラインとカーブのラインを配置することによって、「ほくほく」の頭文字である「h」を表しています。

■ 東日本大震災にかかる対応について

この度の震災の被災者の皆さまにお役立ていただくために、平成23年3月末時点で、グループの北陸銀行および北海道銀行をはじめ、関連会社全体で7千万円の義援金を寄贈いたしました。

また、被災者の方々へ飲料水や毛布等の緊急支援物資や医薬品セットの配布のほか、災害復旧に従事する陸上自衛隊北部方面隊へ顧客贈答用タオルの寄贈を行っております。

このほか、店頭では融資等相談窓口や義援金受付口座の開設、被災地域の他行12行の預金代理払戻し等の対応を行っております。



株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

〒930-8637

富山市堤町通り 1丁目2番26号

Tel:076-423-7331

<http://www.hokuhoku-fg.co.jp/>

株式会社 北陸銀行

総合企画部広報グループ

〒930-8637

富山市堤町通り 1丁目2番26号

Tel:076-423-7111

<http://www.hokugin.co.jp/>

株式会社 北海道銀行

経営企画部広報CSR室

〒060-8676

札幌市中央区大通西4丁目1番地

Tel:011-233-1005

<http://www.hokkaidobank.co.jp/>